



もしもの時に備えて ～避難訓練より～



1月1日能登で大きな地震が起こり、楽しいお正月を家でゆっくり過ごしていた保育園の子ども、実際に地震の揺れを感じて、「怖かった」と話していました。私たち職員も、災害に対して身近に捉え、意識の見直しをする必要性を強く感じました。

保育園では、毎月、子ども達と職員で避難訓練を行っています。地震や火事が理解できる子ども達には、自分の身を守るためにどうしたらよいかということを伝え、実際に保育中に地震や火事が起こった想定で行動し、訓練を重ねています。小さい子たちは、保育士がどのように対応し子ども達の命を守る行動をしたらよいか考えながら反省を活かし、行っています。

日頃から意識をもっていくことで、子ども達も保育士も、もしもの時に少しでも落ち着いて行動できるようにしていきたいと思っています。



地震の合図を聞いて、保育室にいた2歳児の子どもたちは、すぐに机の下に潜り自分の体を守ろうとしています。保育士の言葉を聞いて、慌てず落ち着いて行動することができるようになりました。



地震から火災が起こった想定で、全園児が園庭に避難をしました。保育士は、子ども達を誘導し、全員の無事を確認しました。

訓練終了後、職員間で反省を出し今後の訓練に活かすように話し合いました。



保育目標の一つに、「自分で考えて判断し、行動できる子」という項目があります。日頃から子どもの思いを尊重し、心に寄り添った保育を心がけていくことで、自分で考え行動する力を育てていきたいと思っています。